

「環境未来都市」構想推進フォーラムin近畿

主催：内閣官房地域活性化統合事務局

ライフスタイルの変化に対応した  
環境未来都市づくり

2011年5月10日



京都女子大学現代社会学部

同大学院現代社会研究科公共圏創成専攻

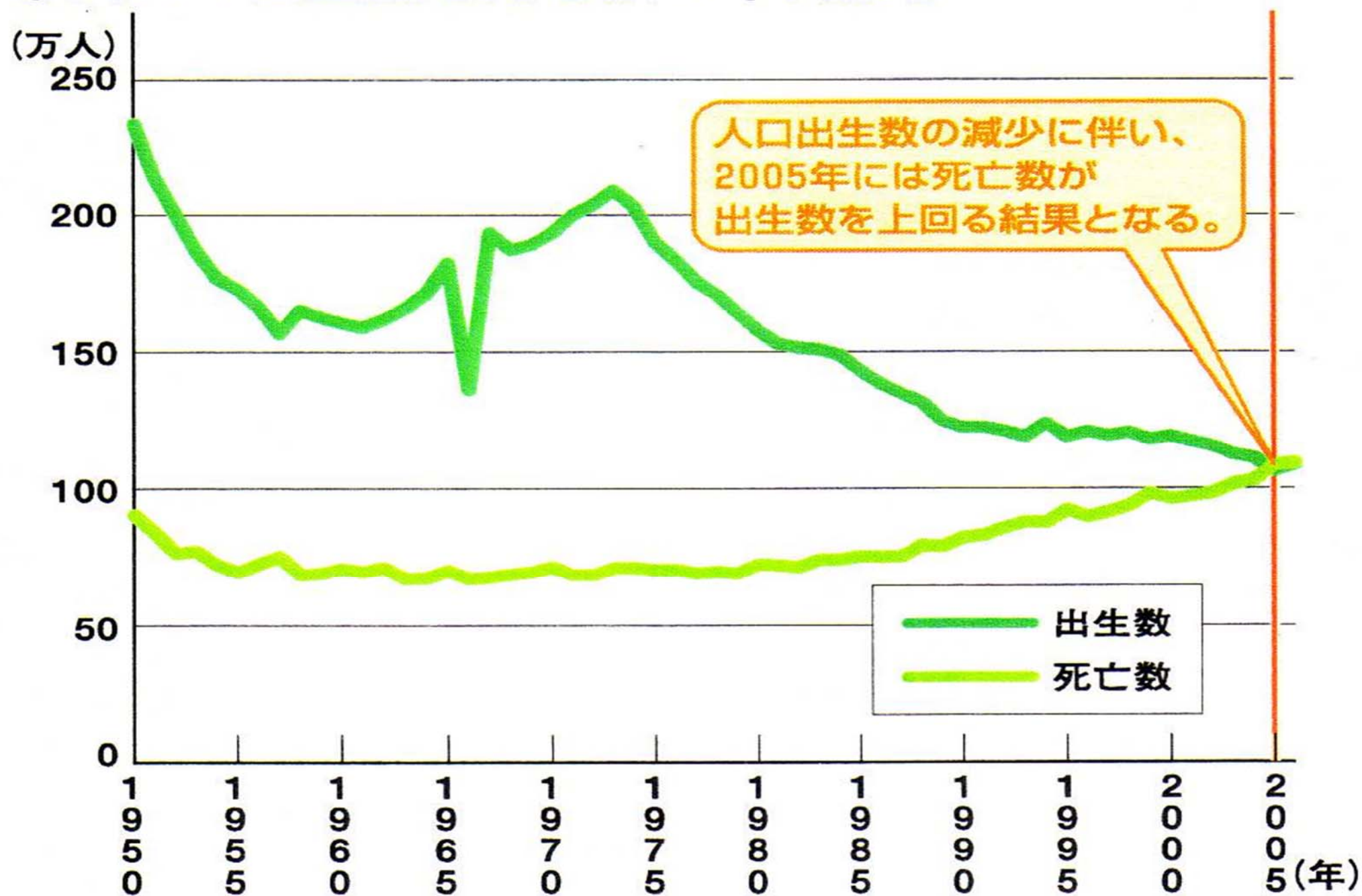
榎村久子



# いきいき生きる

- 社会変化の中で主体的に生きる
  - 自己決定権と選択の可能性
  - モデルのない時代・両面性の時代
  - 自分のライフスタイルが地球環境を決めていく
- 
- 

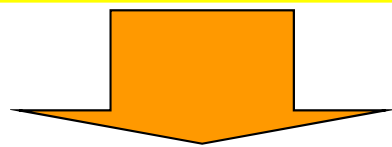
# ◎人口の出生数と死亡数の年次推移



厚生労働省:平成18年 人口動態統計の年間推計より

# 国土やまちの空間の再編成


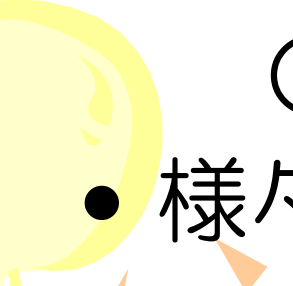
- 明治はじめの人口 : 3000万人
- 2005年の人口 : 1億2770万人
- 2006年から人口減少
- 2050年の人口推計 : 1億0059万人



- 市街地の計画的縮退と土地利用の修復
- 土地利用の再編と森林の再生  
(都市と農村の両方で)
- シュリンク・ポリシー



# 自分のライフデザインは？

- 毎日24時間、人生90年の中で、『私と家庭（家族）』、『私と職場（仕事）』、『私と地域（社会）』をどう創るか
  - 多様な時間のリズムの中での継続性
    - 地球時間、46億年～1000年
    - 歴史的時間、100年～数100年
    - 人間の人生、50年～100年
    - 技術・科学の進化、超スピード
  - 様々な場での関係性を見直しと再編が必要
- 
- 

# ライフスタイルを変える大きな波

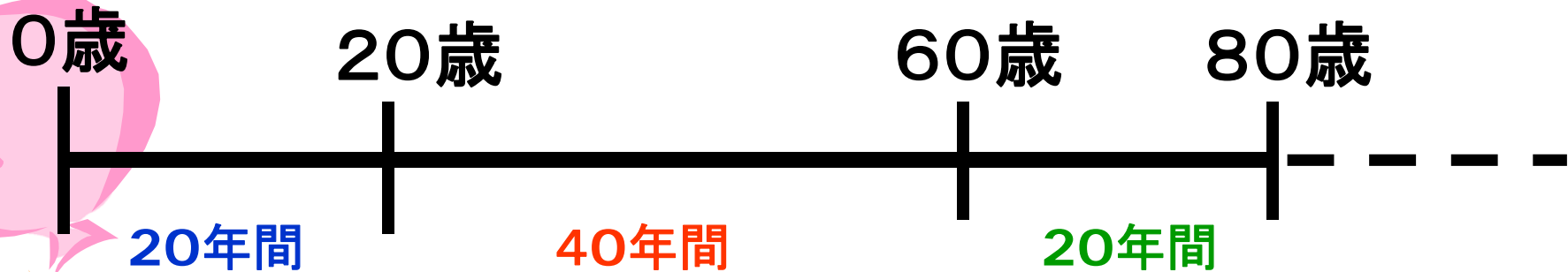
## 少子高齢人口減少と地球環境問題の進行

- 危機こそ絶好のチャンス、本当に豊かな社会を創る
- 産業構造を変える—価値観を変える
- 存在すること、多様性と生命活動の充足
- 時間経過そのものに価値が置かれる社会へ

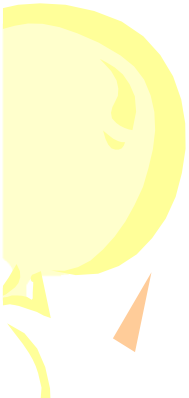



# 多様な時間を楽しむ

- 生産年齢階層だけから、多様な世代へ



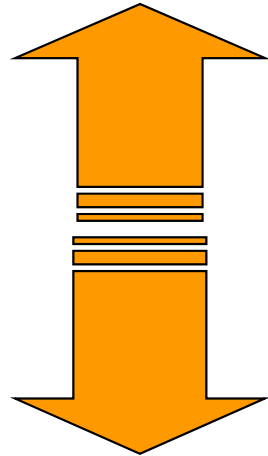
## ・時間の流れの違い

- ・高速道路                      自動車を楽しむ
  - ・自転車道                      サイクリング、風景を楽しむ
  - ・歩道                              歩く、ベンチでゆっくり
- 



# タイムミニマイザー思考

- タイムミニマイザー的な生き方  
生きていくための生産時間を最小にする



両者の中間の  
どこかでバランス

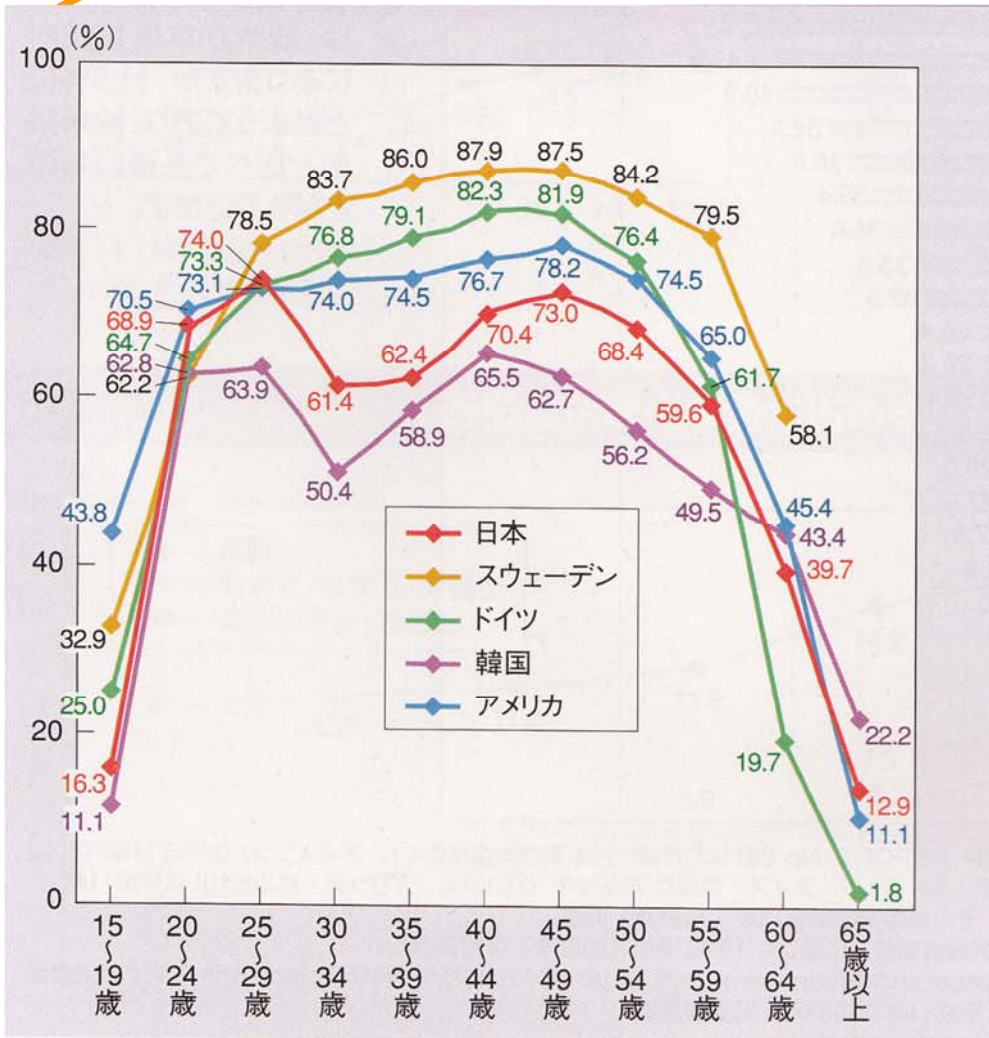
- 
- エネルギーマキシマイザー的な生き方  
今の日本人の典型的な暮らし方



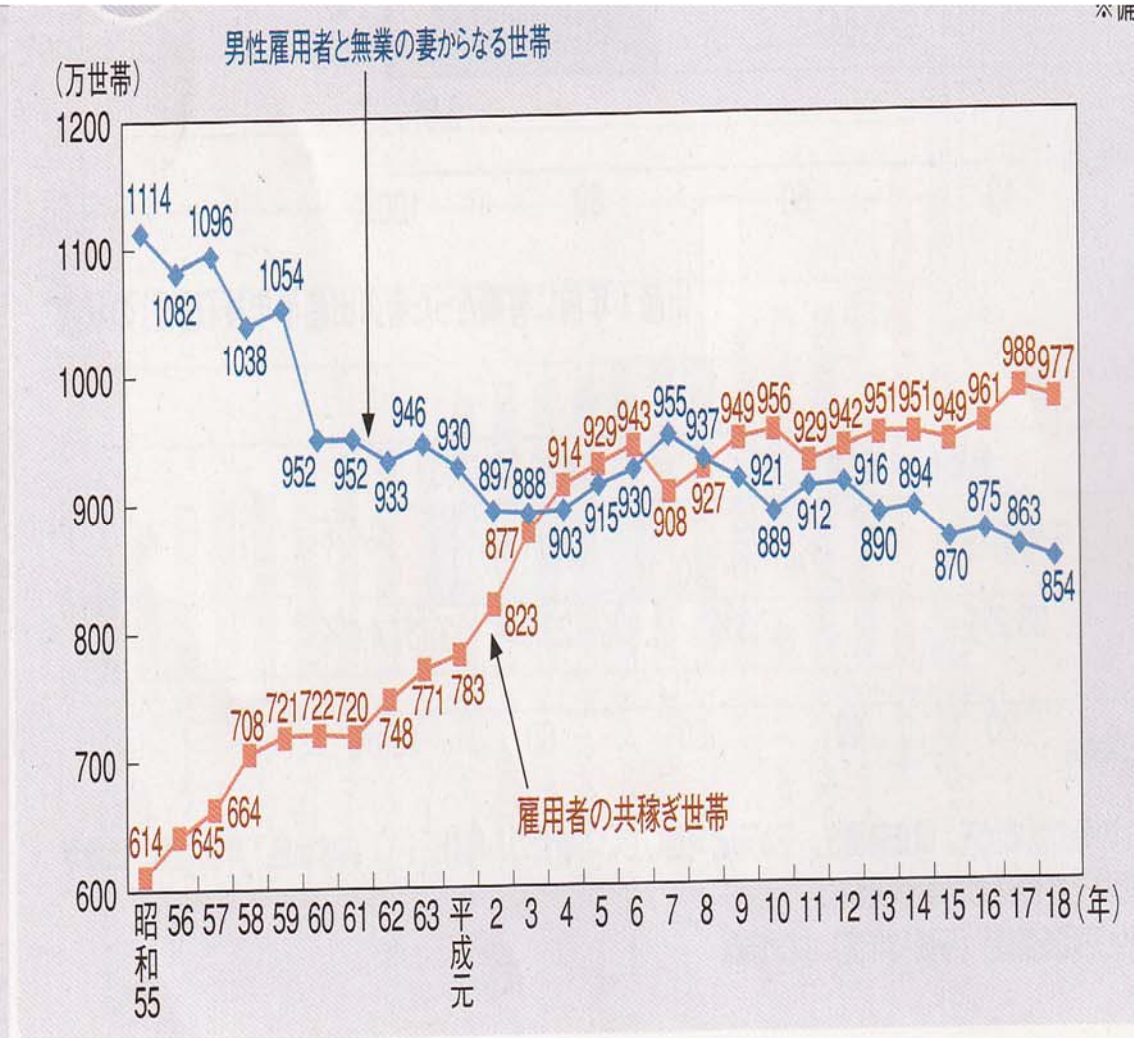


# 少子高齢人口減少社会は 共働き社会

## 女性の年齢階級別労働力率



## 共働き等世帯数の推移



# 環境デザインを考えるための4つのターゲット層

子どもを育てる

ための  
環境デザイン

共働き夫婦の

ための  
環境デザイン

リタイア世代の

ための  
環境デザイン

高齢者の

ための  
環境デザイン



# 子育てと共働きのための環境

## ●子どもを育てる

- ・自分のアイデンティティの原点
- ・土地の記憶や人間の歴史が蓄積された場
- ・安全、自然環境

## ●社会の生産の重要な支え手を支える

- ・都心居住
- ・快適に過ごせる共有空間

# リタイア世代と高齢者に求められる環境

## ●海外派、都心派と農村派

地域コミュニティとどうかかわるか

## ●都心居住

公共交通、病院、デパート、ホテル、美術館  
など文化施設、福祉サービスの集中

移動が可能な、ゆっくり時間を過ごせる空間



# 環境デザインとは

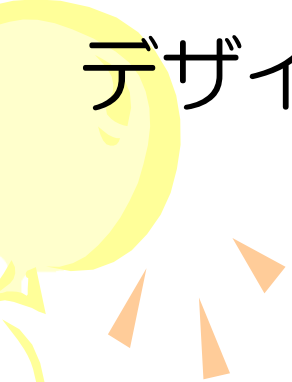
少子高齢人口減少化、地球温暖化の進行など私たちの生活空間を取り巻く状況は、大きく変わりつつある。

社会全体が変動期を迎え、新たなライフスタイルが生まれる中で、

いまクローズアップされているのが**環境デザイン**。

美しい環境と豊かな生活を両立させ、

さらに持続的な発展をも実現するためのデザインである。





# 環境、健康、観光、そしてコミュニケーション

- 少子高齢人口減少社会は
  - ▶ 単身化社会、個人化社会、無縁社会の可能性
  - ▶ 高齢者層、生産年齢階層、次世代子ども層
- 共働き子育て世代階層、高齢者層を支える都市は
  - ▶ 職住近接の意味：利便性、通勤時間の短縮とエネルギーの効率性
- 子どもも高齢者も住める都市へ⇒安全・安心、森・公園・水辺で緑豊か、空気もきれい
- 高齢者も働ける
- 都市の要介護高齢者、無縁者の増加⇒
  - ▶ 終末期サービス、新たな葬送の展開（環境とお墓）



# 水都大阪のシンボルアイランド 「環境先進都市・中之島」

- 面積 約50ha
  - 人口 昼間3万5000人 夜間750人
  - 施設総面積 約100万㎡
- ①エネルギー 河川水・地下水利用の地域熱供給システム、高効率機器の採用、自然・未利用エネルギーの利用拡大
  - ②運輸・交通 京阪中之島線の公共交通の利用、電気自動車、急速充電スタンドの整備
  - ③緑地・水面の拡大や潜熱利用 ビル内の水道水や雨水の中水利用、保水性舗装
  - ④川を生かした景観・水辺空間・夜間景観の向上
  - ⑤ビル内のリサイクルごみの分別
- 
- 

# 大阪市中心部 中之島全景

## 目次

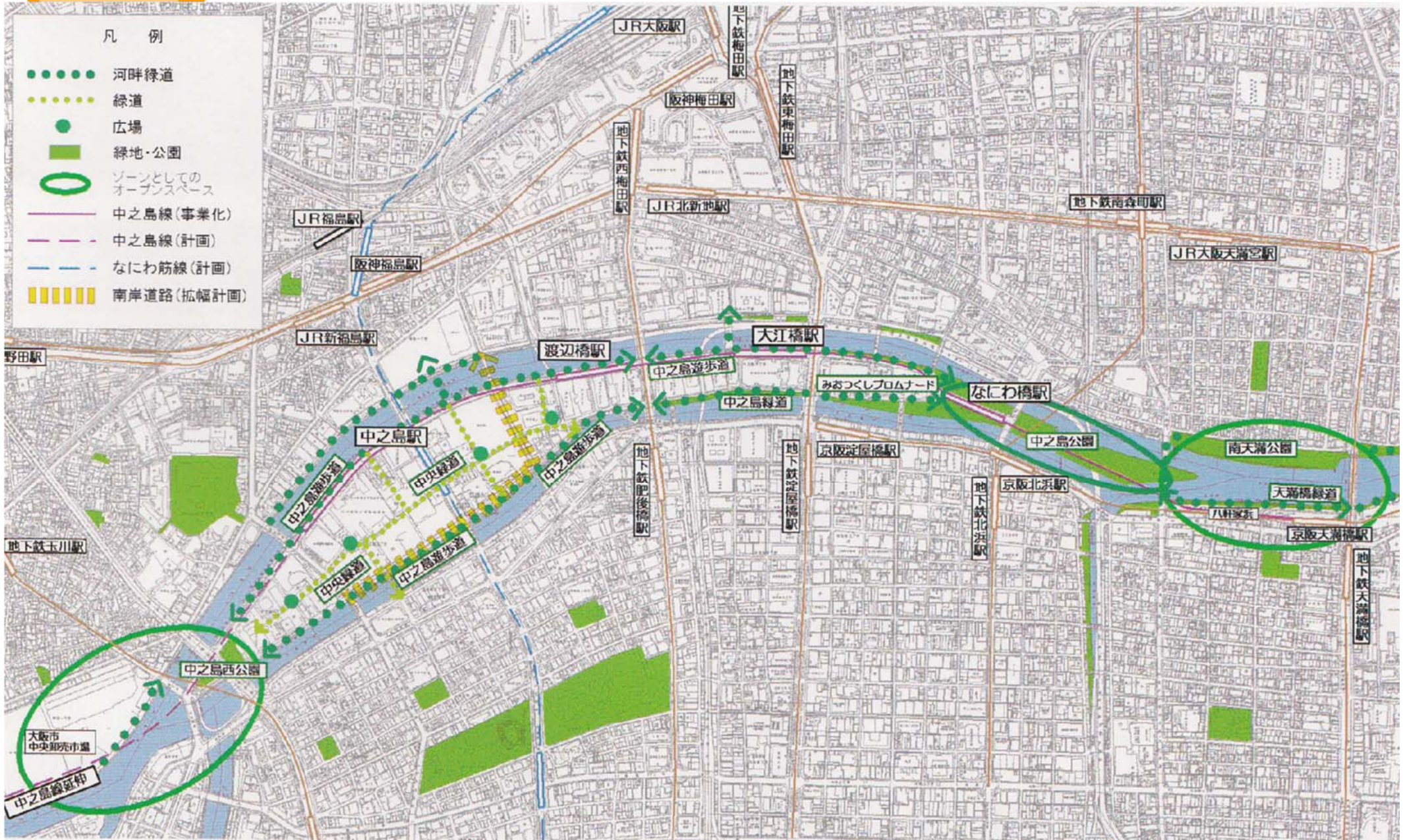
1. 中之島地区の現況と都市開発の経緯
2. 協議会設立経緯および概要
3. 中之島地区の大阪における位置付け
4. まちづくりの課題と整備の方向性
5. まちづくり理念とゾーニング
6. 目指すべき都市ビジョン
7. 中之島まちみらい協議会会員企業一覧

(中之島まちみらい協議会資料より)





# 中之島 緑道と広場のネットワーク形成構想



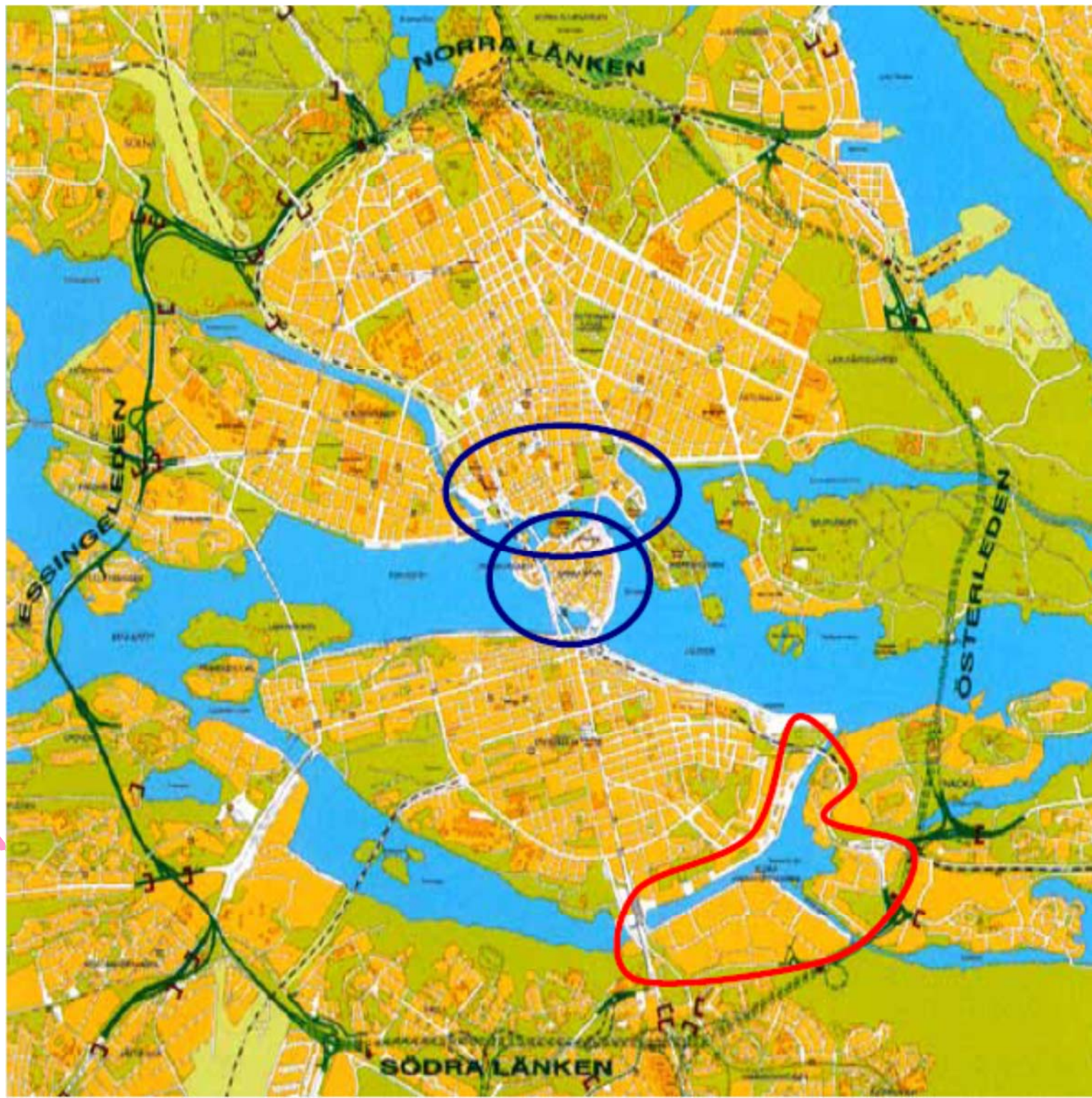
(中之島まちみらい協議会資料より)

# ストックホルム市のハンマビー・シヨスタッド (Hammarby Sjostad)の環境配慮循環型臨海 都市開発

- 2007年「世界クリーンエネルギー賞」を建設部門で受賞
- サスティナブル・シティのコンセプトは世界の都市開発プロジェクトのロールモデル



# 位置图



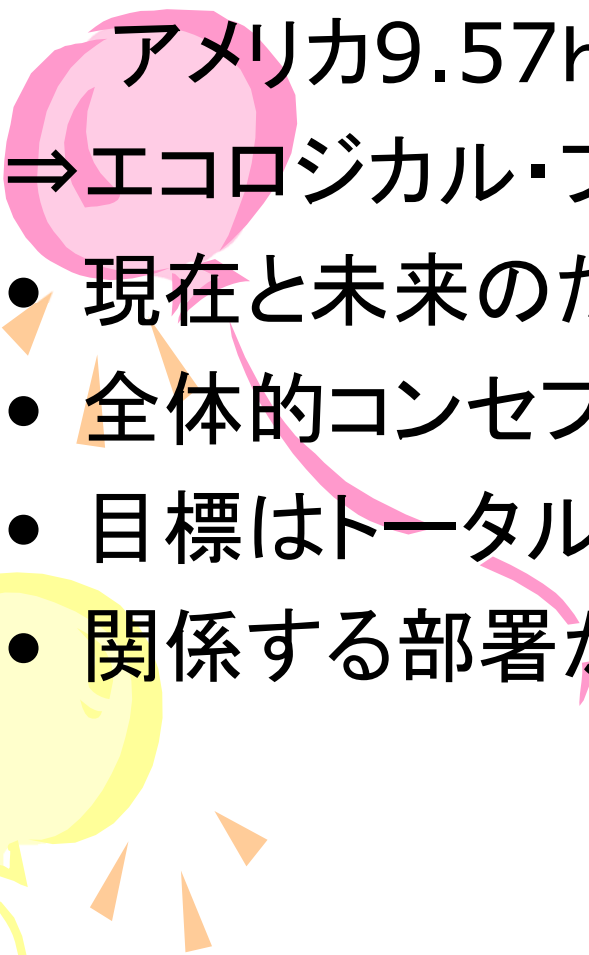
# 再開発前のハンマビー・ショスタッド

GlashusEtt





# 持続可能な都市開発に至る経過

- 背景：エコロジカル・フットプリントの大幅な増加  
アメリカ9.57ha 、スウェーデン7.95ha 、世界1.7ha  
⇒ エコロジカル・フットプリントを減らす
  - 現在と未来のために、生活の質を高める
  - 全体的コンセプトは「健康」「安全」「快適さ」の3つ
  - 目標はトータルの環境負荷を1/2にする
  - 関係する部署が集り話し合うことから
- 

# 現在のハンマビー・ショスタッド



# サステイナブル・シティ実現の要素

- 住宅と雇用と交通

10000戸、25000人の居住者、10000人が働く

- 地域交通 バス、ローカルフェリー、トラム

マイカー各家庭2台⇒0.3台へ、

- カーシェアリングはシティカークラブとスタットオイルの共同運営

- 個人の通勤交通は75%まで徒歩、自転車、地域内交通

- 建築物に重点

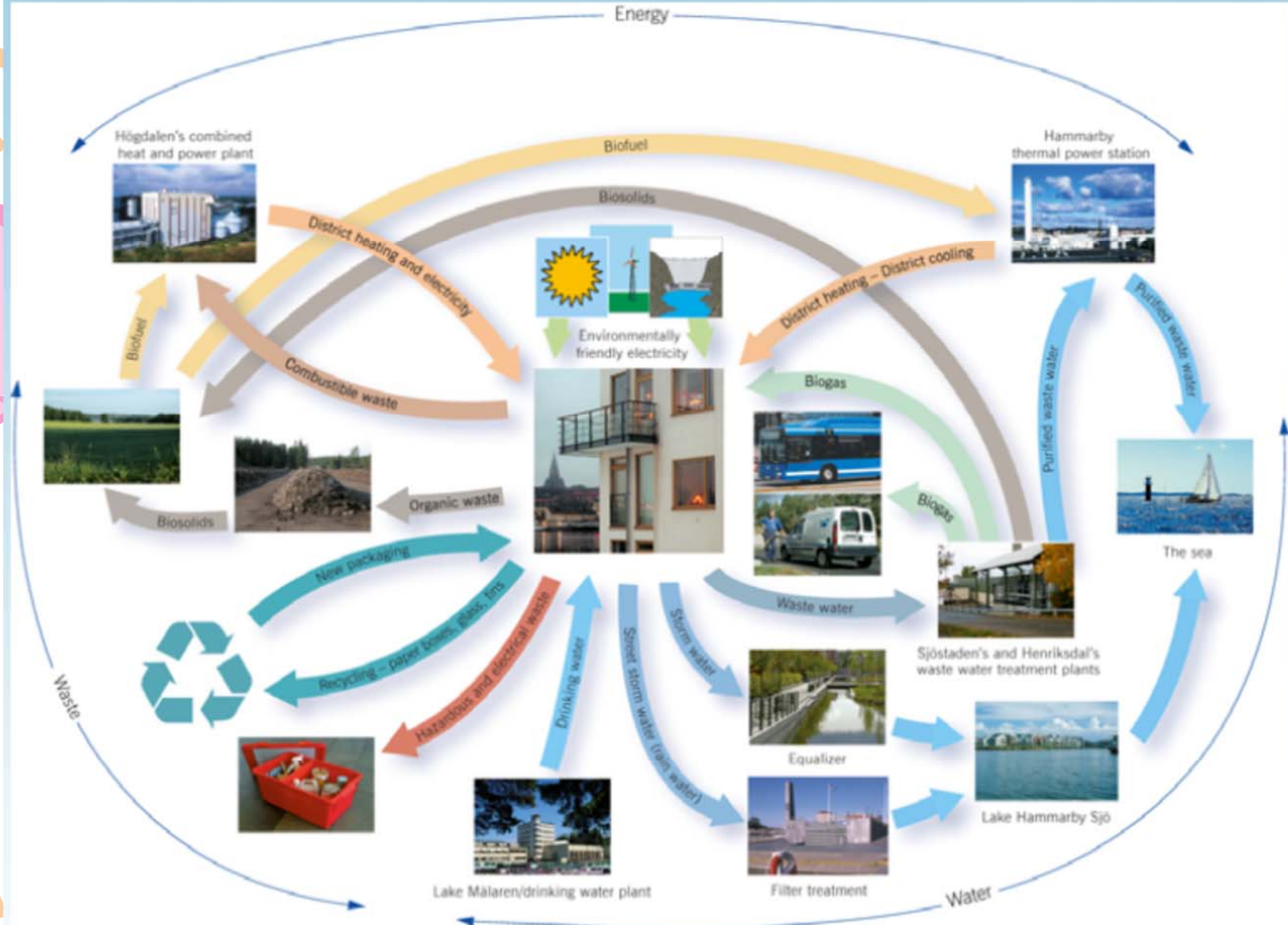
資源、環境、健康の視点で資材をチェック

住居設備は、エネルギー効率の良い製品を義務付け

総予算の2~4%コスト増⇒ 住人は後で取り戻せる

# エネルギーと水と廃棄物の地域内循環システム



## The Hammarby modell







# 水とごみとエネルギーを循環させる ハンマビー・モデル

- 
- 可燃性の廃棄物⇒焼却⇒地域暖房と電力へ
  - 下水処理場の汚水からの熱⇒地域暖房、オフィスや店舗に地域冷房
  - 太陽エネルギー⇒太陽光パネル
  - 下水処理によるバイオガス⇒家庭等のガスレンジ、バス、自動車
  - 水の消費は200ℓ／日／人⇒100ℓへ(現在150ℓ)
  - 雨水を浄化⇒水路に水辺利用
  - 公園システムは、水辺の植生の復元、自然緑地帯とつなぐ⇒住民の散策やスポーツ
- 

# NPO法人淀川さくら街道ネットワーク 1



淀川流域／淀川河川公園  
城北河畔地区



# 新しいライフスタイルと地域環境づくり

1. 都市再生と都市居住の再発見
2. 地域の自然、歴史、文化資産

- 歴史を活かしたまちづくり
- エコツーリズム
- グリーンツーリズム
- 世界遺産登録
- 中心市街地の再生と持続可能なまちづくり
- 北九州とビルバオの都市再生

# 歴史を活かしたまちづくり



近江八幡市(八幡堀周辺)





スペイン ビルバオ市  
グッゲンハイム美術館

環境汚染都市から生活の質  
のまちづくりへ





## スペイン ビルバオ市の 都市再生

## スペイン バラカルド市の 都市再生



# 韓国・ソウル市

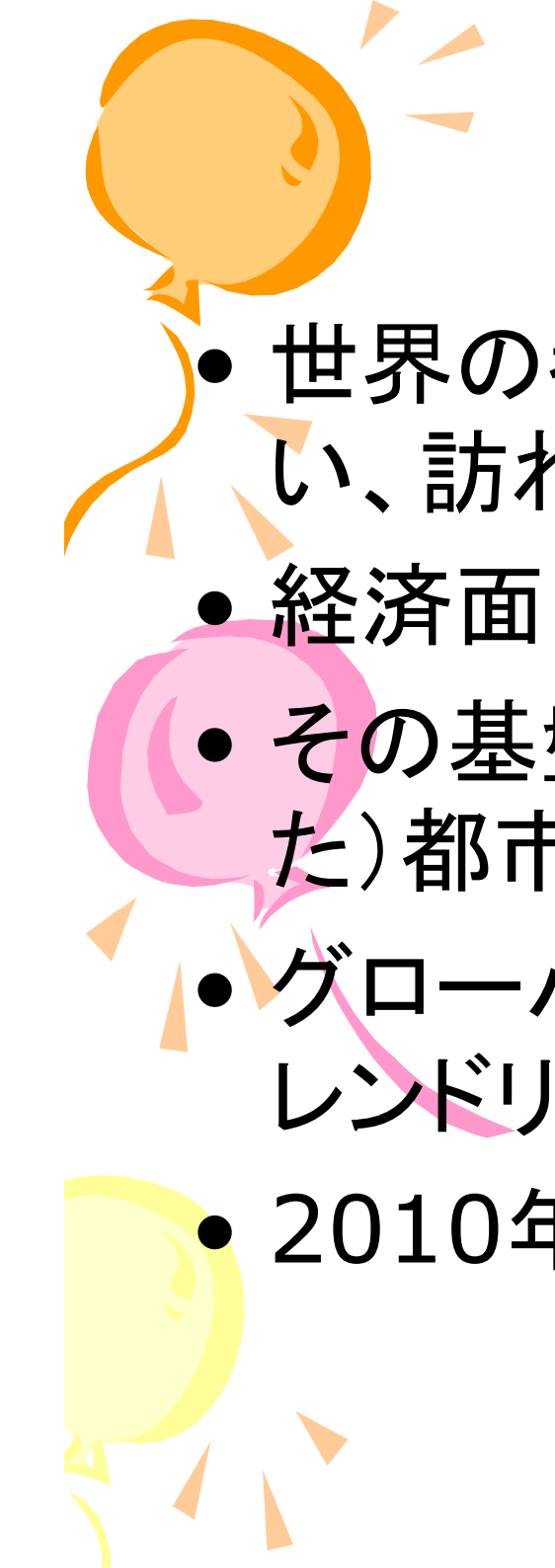
## 「ウーマン・フレンドリー・シティ・プロジェクト」 の事例

### 女幸プロジェクトの背景

- 女性のライフスタイルの多様化
- シングル女性の増加
- 低い出生率
- 高齢者の増加

⇒ 社会サービスと都市における施設や建築、  
構造物の政策の統合を試み

実効性と効果をあげる

- 
- 世界の都市間競争の中で、人びとが住みたい、訪れたい、投資したいと考える
  - 経済面、生活面、観光面でも
  - その基盤となる安全で、美しい(環境配慮した)都市をめざす必要性
  - グローバルな都市戦略としての「ウーマン・フレンドリー・シティ・プロジェクト」
  - 2010年国連公共政策賞を受賞



# 「우먼·프렌드리·시티·프로젝트」의 사례







# 都市プロジェクトの市民参画と協働の方法

- 行政は、女性福祉、都市競争、住宅、道路と交通、環境の5部門
- 大学教授、専門家、女性グループ、NGO
- 都市プロジェクトの発展の方向性  
6つの1つに、環境を基盤にした経済成長への女性の役割の拡大

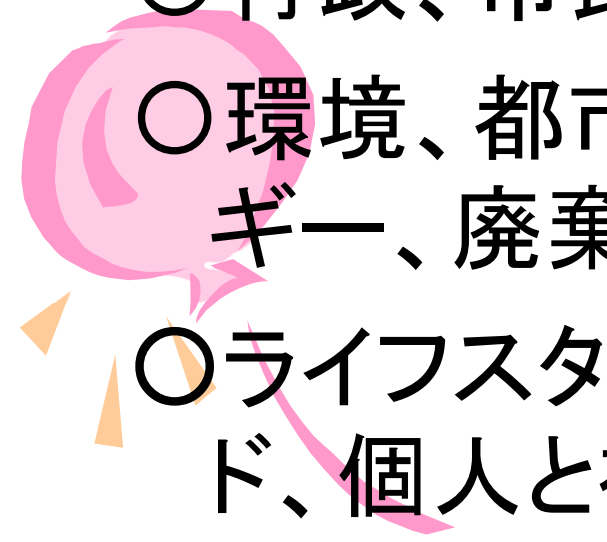
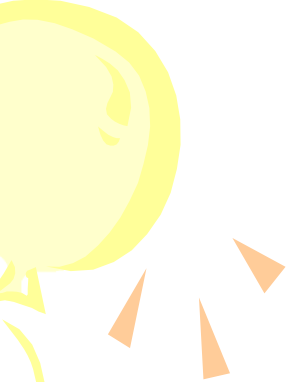


# ライフスタイルの改革と 新たな関係の創造

- 新しいコミュニケーションによるライフスタイルを考える
  - 家庭、職場、地域・社会での能力開発をする
  - 創造的な文化と仕事を模索する
- 
- 



# 都市の品格をつくるパートナーシップ

- 行政、市民、民間事業者の協働
  - 環境、都市開発、建築、上下水道、エネルギー、廃棄物、交通、公園など各分野の協働
  - ライフスタイルの変化に対応したソフトとハード、個人と社会の統合
- 
- 

# おわりに

- 創造力と想像力、コミュニケーション能力を養う
- 時間の質を充実させる
- マラソンランナーの人生を
- それぞれの可能性を生きる
- 人と社会はいつでも変われる可能性を持っている
- 価値観、技術、制度との協働
- 環境文化の創造を地域から